

講演会・シンポジウム

安心できる居場所を社会に

～医療観察法の問題点と課題【午前】

～精神科病院から地域で回復へ【午後】



姜文江さん
弁護士



たにぐち まゆさん
大阪精神障害者
連絡会事務局長



香取 牧子さん
包括型地域生活支援
ACT-Aile (エール)



和田 明美さん
元毎日新聞記者
ジャーナリスト



西前 啓子さん
弁護士

日時

2026年 **10月4日** 日 10時～16時45分 (9時30分開場)

場所

全水道会館 大会議室 (東京都文京区本郷1の4の1)
JR水道橋駅東口3分、地下鉄三田線水道橋駅1分

参加費

一般 **3,000円** 学生 **1,000円** 障害者手帳お持ちの方 **無料**
クラファン「精神病院から地域で回復へ転換」の「シンポジウム参加券」支援者 **無料**
後日見逃し配信 **3,000円**

参加

会場、オンライン を選べます



会場参加の方は、受付で参加費をお支払いください。
学生証、障害者手帳を提示してください



※収益は別の都市で開催するシンポジウムに活用されます

詳細・申し込みはこちら **10月1日正午まで**

問い合わせ: wadaakemitomiraiwotukurukai@gmail.com

主催: 和田明美と未来を創る会(市民活動団体)



テーマと登壇者プロフィール (敬称略)

✿【午前】医療観察法の問題点と課題

姜 文江

弁護士 **テーマ：法制度の問題点**

医療観察法入院患者の退院につながったH30.1.12東京高決(判例タイムズ1453号149頁)など多数受任。日弁連刑事法制委員会医療観察法対策部会副部会長。「自由を奪われた精神障害者のための弁護士実務【第2版】」(現代人文社)など執筆担当。

和田 明美

ジャーナリスト **テーマ：実態報告と診療報酬・医療の課題**

元毎日新聞記者。長年、精神医療問題取材。著書に「薬物依存をのり越えて」。6月「日刊ゲンダイ」で「実録 精神医療後進国につぼん〜クスリ漬け収容」連載開始。

✿【午後】精神科病院から地域で回復へ

たにぐち まゆ

大阪精神障害者連絡会事務局長 DPI日本会議常任委員

NPO大阪精神医療人権センター運営委員 **テーマ：過酷な入院体験**

小学生で摂食障害、中学生で統合失調症発症。大卒後、福祉職。大学院に進むが精神科病院に入院してから学業も定職も困難に。計12回入退院を繰り返す中で障害者運動に加わった。

西前 啓子

弁護士 **テーマ：精神疾患でないのに強制入院 地裁判決の意義**

京大卒後、弁護士事務所に入所するが心を病み辞める。商社勤務、出産育児を経て回復後の2019年弁護士復帰。現在は企業法務の傍ら、精神医療問題に取り組む。

香取 牧子

ACT-Aile (エール) ケースマネージャー

つばさクリニック薬剤師・精神保健福祉士 相談支援事業所エール所長

テーマ：ACT (包括型地域生活支援プログラム) について

薬科大卒後、薬局や総合病院、精神科病院に勤務。13年「つばさクリニック」を設立し、重度の精神障害がある人を地域で支えるACTを実践している。

北海道 当事者 **テーマ：ピアサポートの可能性と希望**

和田 明美

ジャーナリスト **テーマ：地域で回復へ転換 財政の視点から**